



キオマ通信

20231127 VOL19 REYONE_ME

NOTitle: YaYeN

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について：森の木立から昇る朝日



自分が創造しているのは…贈り合い

マヨク：YaYeN

第19回 「光の広がり」

ユソセンヤン
ありがとうございます。

自我の展開において、「わたし」を生活している人は、響きが閉じており、外に開かれておらず、内側に向いているために、自分の利益だけを求めます。

「わたしとあなた」を生活している人は、いくらか響きが開いており、外に向っているため、自分の響きと共鳴できる人と重なり、その人の利益を考えます。

「みんな」を生活している人は、さらに響きが開いており、これまで共鳴できなかった人とも重なっていて、たくさんの人の利益を考えます。

そして、「私たち」を生活する人は、響きそのものが大きく広がっており、その大きな響きの中に、みんながいるようになり、その人たちとつながっていて、みんなの利益を考えます。

ここで、注目したいのは、「みんな」を生活している人と、「私たち」を生活している人の、響きの広がりの違いです。

「みんな」を生活している人は、まだ響きは大きくは広がっていません。あくまでも自分という狭い範囲であり、その響きが多く他の者の響きと重なるようになっているのですが、「私たち」を生活する人は、響きそのものが大きくなることで、重なりではなく、つながりになっているのです。

このように、響きが広がっていくことは進化ですが、そのために、私たちがどこに住んでいるのかはとても大切なポイントです。

すでに今治のように光が広がっている場所にいると、自ずと自身の響きも広がり、自然と「私たち」へと進み、人々とつながり、ともに成長し、進化していくことが容易になります。

反対に、闇のエリアに住んでいると、そもそも光の広がりがないので、誰も自分の響きを広げることができず、むしろ響きを守ろうとして、自身を閉じてしまい、知らず知らずのうちに、自分の利益を優先しようとしてしまいます。

光を生きるあなたへ

光ンヤン

なので、闇のエリアに住みながら、光の広がりを経験し、「みんな」から「私たち」へと進化することはとても大変なことです。

今治への移住を考えている方は、ぜひそれを実現しようとしてください。
その実現は、大きな達成を受け取る最善、最速の道だと思います。



地球は私たち、
私たちは地球

ユソセンヤン ありがとうございます



自分が創造しているのは…全宇宙と創造されたこの世界のすべて

第19回 大三島について

今回は、大三島についてお伝えいたします。

現在、ナシマを含めた2名のKIRスタッフが大三島に住んでおり、半年ほどが経ちます。大三島に住んでみて、一番に感じたことは、空気がとても澄んでいて透明感があり、景色がとてもクリアにハッキリとみえます。



大三島の人口は、今年3月末時点で4914人。直近の30年間で人口は半減しているそうですが、起業を目的とした移住者は増えているそうです。昔から大三島に住む方々は、風習や伝統を知りつつも、自然や環境を感じながら、変化を取り入れていらっしゃるように感じます。大三島へ移住された方や、一度、大三島を離れて戻ってこられた方々のお話をお聞きすると、とても創造的に、お仕事やコミュニティを生み出し活動されています。小さい島ですが魅力的なお店もたくさんあります！

KIRは、この大三島で純粋な野菜やお米をつくる創造活動をしてまいります。現在は、無農薬で野菜やお米をつくることのできる土地を探しております。大三島にて、そのような土地の情報をご存知の方がいらっしゃいましたら、ぜひお教えいただきたく思います。

以下、KIRまでご連絡をどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人コトハ・インテグラルリサーチ (KIR)事務局
info@kotoha.or.jp / Tel: 0898-39-6817

ユソセナシマ ありがとうございます。



自分が創造しているのは…湧き上がってくる想念すべて

植物から自然知性を学ぶ

ロヲマ

第19回 今治畑から尊厳は意味ではないことを考える

ユソセロヲマ ありがとうございます。

尊厳は意味ではないとンヤン先生は、強調されて何度も説明されます。今回は、今治畑からヒトの持つ尊厳は意味ではないことを探求しようと思います。

【農作物の尊厳】

今治畑では、大根、そら豆、小松菜、オクラ、人参が育っています。その農作物は勝手に自然に現れたのではなく、我々のヒトが意図を持って種を植えて育てました。つまり、それぞれの農作物自体には意味はなく、ヒトが食べて滋養というエネルギーを得るといった目的のために、それぞれの農作物は存在します。農作物の尊厳について考えると、自身の存在を、ただただ現して、そして、種から種へと生命を永遠に現し続けていると思います。農作物は、一切の自身の尊厳、存在というものを知っており、何の迷いもなく、自身の尊厳を現していると、今治の農地の植物が感じられます。例えば、昨年植えた小松菜の種を6月に採取しましたが、11月になり、その畝から種を採取した際にこぼれ落ちた種から、自然と発芽して小松菜が生えています。小松菜は、自身の尊厳、存在というものを知っており、季節という円環の中で最も適したタイミングで、自身の尊厳という存在を現すのです。

【ヒトの尊厳】

農作物からヒトの尊厳について考えると、各個人には尊厳という絶対的な存在があると思われれます。例えば、1万円札は、汚してもボロボロにしてもその価値は変わりません。同じように、人間の尊厳も外見や環境の変化に左右されることはありません。1万円札には表面に額面が印刷されていますが、その価値は紙自体にはなく、日本国と日本銀行の信用に由来します。しかし、人間の尊厳は、外見や能力など個人の属性には関係なく、人間という存在自体に内在する価値です。また、1万円札は宇宙共通の通貨ではないため、地球外ではその価値が失われます。しかし人間の尊厳は国境や地球を越えて宇宙共通の普遍的な価値があると考えられます。1万円札は消費や投資の対象となり、価値の移転が可能です。しかし人間の尊厳は売買の対象とはならず、平等で移転不可能なものです。つまり、ヒトの尊厳は、お金に例えることはできないほど、意味ではなく絶対的なものです。そして、ヒトの尊厳は、外部の状況や評価に左右されず、不変の存在だと考えられます。

【尊厳と目的】

ンヤン先生は、人は生きることの意味を考えるが、そもそも生きることの意味はなく、目的があるだけだと言われます。ヒトの尊厳も意味ではなく、目的があるとするならば、ヒトは何の目的のために存在するのでしょうか。もしかしたら、農作物と同じような目的なのかもしれません。

【尊厳の本質】

農作物がただ生きることのみ意味があるように、人間の尊厳もまた、意味ではなく無条件の存在としての価値があると考えられます。人間の尊厳は、個々の定義を超えた、生命存在の核となる価値があると言えるでしょう。たとえ汚されても、人間の生命、すなわち魂は、変わることはない光を持っているのです。それが尊厳なのかもしれません。

ユソセロヲマ ありがとうございます。



自分が創造しているのは…過去の経験や記憶が私の創造を形作っていると認識していますが、今後は本当の創造性を高め、本当の創造を生み出せるようと考えています。

第19回 瀬戸内の島々

ユソセキマレ

ありがとうございます。

大三島は最近風が強い日が続いていて、朝晩の冷え込みもきつくなってきました。今年も秋は短く、一気に冬がやってきそうです。

大三島では毎日、観光客が多く訪れています。

大三島の北に大久野島というウサギ島と言われている島があるのをご存知の方も多くいらっしゃると思います。

自身もずいぶんと昔に訪れ、とても人懐こいウサギと戯れたことを覚えています。

大久野島は周囲4.3kmの小さな島で、島全体が国立公園に指定されています。

戦時中には、毒ガス工場があり地図から消された島であったそうです。

戦後、本州の小学校で飼われていた8匹のウサギが放され、野生化し現在では700羽ほど生息しています。

島では車などは走っておらず、国民休暇村の宿泊施設があり多くの方がここでゆっくりとした瀬戸内の時間を過ごしています。

大三島の盛港からもフェリーが定期的に便があり、大久野島から大三島を眺めるのもまた違った魅力を楽しめるのではないのでしょうか。

ユソセキマレ

ありがとうございます。



第19回 自我の展開

ユソセシナリ

ありがとうございます。

「わたし」から「わたしとあなた」、そして「みんな」、「私たち」、「ひとつ」へという自我の展開があります。

シナリがお風呂に入っていた時のことです。シャンプーとマッサージオイルのガラス瓶を床に落としてしまいました。落ちた瞬間、「ごめんごめん、大丈夫!？」と言っている自分がいました。昔だったら「しまった!」とか「割れるー!」と思うだけでした。幸い瓶は二本とも割れず、拾い上げながら、まだ「ごめんごめん」と言って瓶を撫でている自分に、その時ようやく気づき、驚きました。

これは、自我の展開が「わたし」から「わたしとあなた→みんな」に進んでいることを現しているのだと思います。内側の自分を捉える認識のレベルが変わっている、という感じです。わたしよりもガラス瓶の利益を考えています。

これが「私たち」に進めば、ガラス瓶を落とされた床とも、その音が響き渡った浴室とも、このガラス瓶を作った全ての人ともつながっていくのだと思います。

講座で知識を学ぶことは、日々の自身の変化を進化として認識するためにとっても大切だと知る出来事でした。

ユソセシナリ

ありがとうございます。



第19回 ルートラーナ

ユソセメセンありがとうございます。

ルートラーナとは日本、世界、地球、宇宙に光を放っていく人、場所、組織のことです。

そこで人々は自身の純粋な思いを具現化するミコトを贈り合いながら、意図をもって自身の進化に向き合い、光を放つ源となって世界を創造していきます。

創造の源である私たち一人ひとりから放たれる光は、階層構造を展開しながら宇宙へと広がっていきます。

ユソセメセンありがとうございます。



第19回 デジャヴ？

ユソセロラン
ありがとうございます

キオマ食堂で、週末(金)(土)に2日間開店するチケカフェをお手伝いしています。
Open当初からだから、8か月ばかりになります。
今日、初めて気づいたことがありました。
開店前に今日のお菓子を仕込み中のチケカフェさんに
『今日はどんな感じでいくん？』と聞いた時、
チケカフェさんのお答え『内緒です』
…内緒…なのかい

それを聞いて思い出したことがありました。
キオマ食堂でお昼のまかないをつくるのに、当初キリヲさんがお手伝いくださっていて
ロランと一緒に働くキリヲさんにも、まかないのごはんに
サプライズの気持ちを味わって欲しかったのです。
それは、それまでキオマ食堂でひとりやってきたロランにとっては自然のことで
どんなおかずが出てくるか、味、組み合わせ、盛りつけ、見た目…
それらを目にしたとき、口に運んだとき、どんな反応なのか、よろこんでもらえるか、
食べにいらっしゃるお客さまだけでなく、いわば同じ側にいる提供する側の彼女にも
それを感じてもらおうとしていたなあど。
だからこれから何をつくるのか、ひと皿をどんな仕上がりにするつもりなのか、
キオマ食堂にいっしょにいるのにひとりで背負って、
思えばそれも不純な印象丸出しだったなあど。

チケカフェさんの『内緒』の本心、どんな気持ちの現われかもしれず、それを気にもせず、
しかし内緒にする側、される側、どちらの気持ちもなんとなく押し量ることができるのは、
キオマ食堂という舞台があるからこそなんだなあど、感じる次第でございます。

ユソセロラン
ありがとうございます



第19回 その19

ユソセチラテ
ありがとうございます。

先日チケカフェではたまごを解禁し、バームクーヘン（っていうかどうみても車麩）やドーナツをチラ菓子としてお出ししました。自身の技術力から、いずれも穴のないものが出来上がり、自分にはどうしても埋まらない穴があると言って泣いているすべてのboys and girlsに捧げた次第です。

自身は長らく、何を得ても食べても誰といってもどこへ行っても、その「埋まらない穴」のようなものはなくなるらない、なんでドーナツは穴があってこそそのドーナツなのに、わしは自分の穴を欠落感と捉えてしまうのか、とっていました。

あんた暇なん？

外側から得られる何かで内側を本当に満たすということは永遠にできないのだ、ということでしょうか。

内側から外側へ、自身の純粹なものを現すこと、自身の今の段階においては、自分ではない存在に対して、光の質を与え続けること、広げることによってのみ、本当に自身が満たされ、それは実際にやったことのある人にしかわからないものなのだろうと捉えています。

ところで、ドーナツを食べたあと、穴はどこへ行くのでしょうか。ドーナツが輪っかであることによって存在する穴は、ドーナツである可食部がなくなっても、この世界に在り続け、この世界すべての空間と等しく、何も無いということは、すべてがそこにあるということであるとしたら、いつまで経っても自身からなくなるない「穴だと思っているもの」の方が、実はわしの本質だったりするんじゃないかね？

ユソセチラテ
ありがとうございます。



コトハを学び、ミコトを生きる

ナラユ

第17回 「学びは力になる」

ユソセナラユ
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ナラユです。
「コトハを学び、ミコトを生きる」の第17回です。

何か1つの物事に取り組もうとするとき、知らないことや分からないことばかりでは、力の出しようもありませんが、逆に、分かっていることばかりでも力は発揮できません。分かっていることと、分からないことの両者がちょうどよいバランスにあるとき、人は、真剣になり、活力が湧き、もっとも力を発揮することができるのです。

私たちは、コトハを学び、ミコトを生きることで、自分の中に分かっていることと、分からないことのバランスをもたらし、より大きな達成（分からないこと）へと向かう力を得ることができます。

物理学者は、日々未知の世界を探求し続けていますが、これができるのは、分かっていることと、分からないことのバランスが常に保たれているからです。知れば知るほど未知の世界が現れると言いますが、それでも進み続けます。これはとてもファンタスティックです。なぜなら、1つのことが分かることによって、未知の世界の扉が開き、次の分からないことが現れるとき、そこにはすでに達成があり、それに向かうようにできているからです。

ユソセナラユ
ありがとうございます



自分が創造しているのは…どのようなものにも知識があり、それを観る欣び

はじまりの区別

ユソセイキセ ありがとうございます

ルートラーナ創造活動グループでTCM(時間創造マスター)の活動がはじまりました。

地球の光のエリアで起こっている出来事を善悪の判断はせず、光の方へ進んでいるのか、闇の方へ進んでいるのかをみていきます。今まで馴染みのなかった土地のさまざまなニュースや、そのエリアの希少生物の生態に、地球が多様性に溢れていることを感じています。

善悪ではない、光なのか闇なのかの区別は練習中となります。自身の不純な印象からか、光と闇どちらも含んでいるように感じるケースも多いです。

光と闇について考えるとき、ンヤン先生が数年前にツイッター(現X)に投稿されていたお話を思い出します。

生まれてくる前の魂たちが話し合いをしており、どの魂もよいことをしたいと発言していたところ、ある魂がみんなのために悪役を買ってでるお話です(ざっくりな説明ですみません)。

光を生きることが望む魂が多い中、次の生ではみんなのために悪役を生きると決める魂がいるというお話だったと記憶しております(まちがえていたらごめんなさいです)。

この世界の現れとして善き役と悪役があっても、もとはひとつからの現れで、全体が進化へと向かうためにそれぞれの役割をこの世界で生きているということでしょうか。善悪を超え進化を望むなら、光へ向かっているということでしょうか。

はじめは対象を、光か闇どちらなのかを区別すると思っていました。

しだいに対象の中には光と闇どちらもあり、その中から光を区別し、光を観ようとする事？
いつかは黒の中にある白い光の点を、黒と区別し、みることができるようになるのかな？

黒の中の微かな点である白い光も区別することができ、区別されたことによってその光が拡がり、しだいに白が拡大して黒が消えていく、その対象の達成を知っているということ？

微かでも光を観ることができる、達成を観ることができる

つねに光を観ようとする意図を持ち続けることができる

。。ということ？かしら？。。もんもんとしながら拙い探求中の日々です。

ユソセイキセ ありがとうございます

第19回 ドミノを倒して

ユソセキリヲ ありがとうございます

本号ではルートラーナ創造活動グループメンバーのイキセさんに原稿をお寄せいただきました。文中に登場する、ンヤン先生がお書きになった魂のお話のことを、皆さまはご存じでしょうか。自身にとってはとても思い出深いお話であり、当時はただただ感動しながら、何度も繰り返し読んだものでした。

今、改めて読み返すと、「相對の光と闇と、絶対の光」を区別しようとしながら読み進めている自分がいたり、自身もそんな約束をして生まれてきたのだろうかと思ってしまう。静けさに向かって問いかけたり…読み終えたあとは、イキセさんの顔を思い出して、人が本気で自身の光の質を現そうとするとき、その現しは確実に周囲に広がるのだと、なんだか励まされた思いがしたのです。

そして、どんな視点で読んでも変わらずきらめいているこのお話を、皆さまにも共有させていただきたく、ンヤン先生から掲載の許可をいただきました。

タイトルは「魂の約束」です。

.....「魂の約束」.....

天の国にはたくさんの魂たちがいます。

彼らは皆、自分の順番が来て、やがて地上に降りる日のことを待ちわびています。

ある日、数百人の魂が神様に呼ばれて広間に集まりました。

魂たちは、これから神様からいよいよ地上に降りるためのお話を頂くためにわくわくしながら待っています。

やがて彼らの前に現れた神様は、ゆっくりと魂たちを見ます。

そして、魂たちに質問をしました。

「お前たちは、これから地上に降りて、どのような純粋な思いを叶えようとしているのか？」

すると、一人の魂が答えます。

「はい、私は地上にこの上ない美しさを届けようと思います」

もう一人の魂が答えます。

「私は、地上に静けさをもたらし、調和と安定を創造します」

さらに、別の魂が答えます。

「私は、愛という滋養を与え、豊かさと幸福をもたらしします」

神様は、微笑みながら黙って聴いています。

やがて、神様が話し出しました。

「では、お前たちのその純粋な思いを叶えるために必要なものを授けよう。この上ない美しさを届けるために、お前には誰よりも繊細に音を聞けわかる耳としなやかな指を。静けさをもたらし、調和と平和を創造するために、お前には瞑想を習慣としている両親と動物や植物を愛するところを。そして、愛という滋養を与え、豊かさと幸福をもたらすために、お前には多くの人を受

け入れることができる広いところと活動のための強い肉体を、それぞれ授けよう。」
魂たちは、みな自分がどんなところをもち、どんなからだをもち、どんな両親や環境に生まれるのかを、欣びをもって聴いています。

そして、最後に神様が言いました。

「しかし、私がお前たちに授けるものだけでは、お前たちは自分の純粋な意思を叶えることはできない。それがなんだかわかるかね？」

魂たちは、思ってもみなかった神様の言葉に黙ります。

しばらくの後、一人の魂が答えます。

「はい、美しさをもたらすためには、醜さがなければなりません。調和と平和を創造するためには、争いがなければなりません。そして愛という滋養を与えるためには、それを必要とする人がいなければなりません」

神様が言いました。

「その通りだ。しかし、ここにいるお前たちは皆、ほんとうに美しく、平和で、そして愛に溢れている。どうして、それが可能になるのか？」

しばらく魂たちは黙っていましたが、やがて一人の魂が答えます。

「私が、地上に降りたら、出来るだけ美しいものを破壊し、調和を乱し、愛のない生活を送ります。そうすれば、美しい世界を築き、調和を創造し、愛を届けようとする私の兄弟の願いが叶うはずですよ」

「お前はそれでいいのか？」神様が尋ねます。

「構いません。私は、自分の本質が神の美しさであり、調和であり、そして愛であることを知っています。たとえ地上に降りてそれを忘れたとしてもです。ですから、神様、私にはそのようなところとからだをください。でも、一つだけ願いがあります」

「それは一体なんだね？」

「はい、神様にではなくて、皆に願いがあります。どうか、どんなに私が地上の美しさを破壊し、平和を乱し、そして愛のない生き方をしても、私のことを心の底から憎まないで下さい。私は皆を愛しています。たとえどんな私であったとしてもです」

魂たちは全員約束をしました。

決して、その魂のことを心の底から憎まないよ。

この地上に生きている人のすべての魂は、完全に純粋です。

そのことを忘れて生きているだけです。

.....

それでは、次回は約2週間後のレヨネのハ、新月の日にお目にかかれますよう。

本号も最後までお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年11月27日、レヨネのメ、満月の日に。

ユソセキリヲ ありがとうございます



自分が創造しているのは…どんなものでも、それは成就に続く道
(と、毎晩、折れた心に言い聞かす)

マ〜のLINEスタンプで
指先から欣びを広げよう

♡絶賛発売中♡



[いつだって欣びがいっぱい♡マ〜スタンプ①]

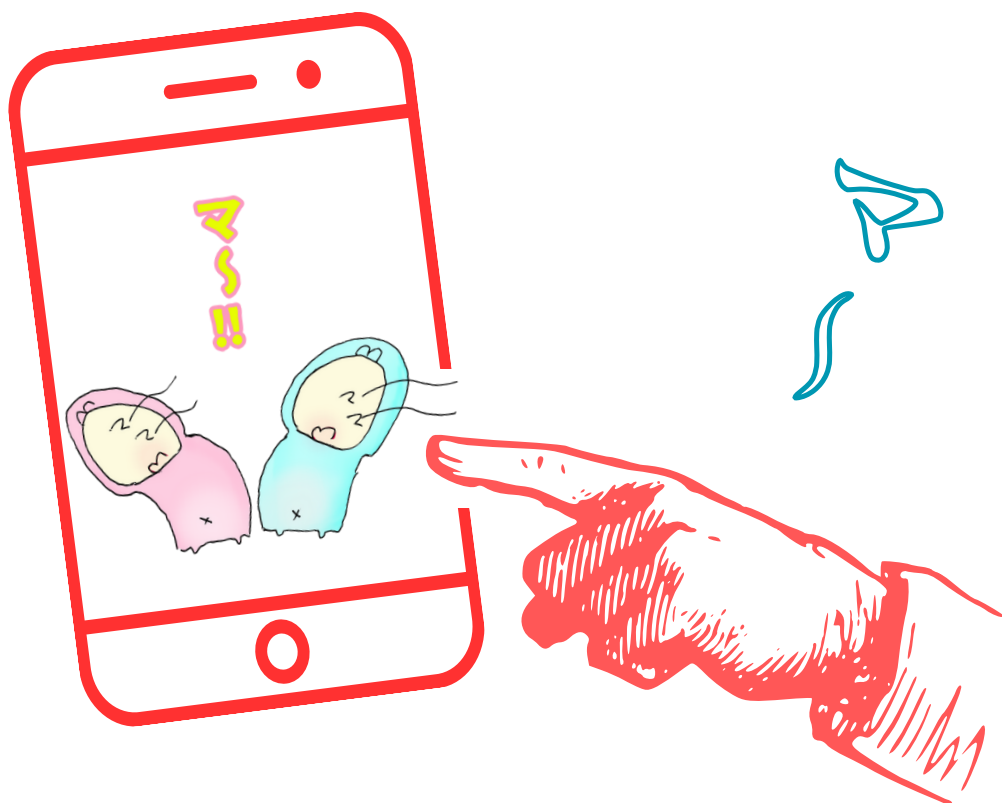
https://line.me/S/sticker/24538084/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail

[いつだって欣びがいっぱい♡マ〜スタンプ②]

<https://line.me/S/sticker/24495397/?>

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/?](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/?)

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail)





KoToHa *Integral Research*